

6月22日に、卓越した節電と省エネへの取り組みを実践しておられるアズビル藤沢テクノセンターに実践内容の紹介と見学をお願いした。

当事業所は製造を順次縮小し研究開発へシフトしたため、97年と07年に開発建屋を増設し、床面積は63.5%増加、人員は2.5倍の2,000人に増加したが、徹底した見える化と弛まない様々な対策でCO₂原単位は60%まで削減している。

照明の省エネ

照明はインバーター化し、自然光の利用を徹底。古い建屋の照明は1灯ずつ紐スイッチを付け真下の従業員がON・OFFする。新しい建屋は照度センサーなどで自動制御する仕組みだが、更に各自のパソコンから真上の照明をON・OFF出来るようにして細かく管理している。また、照明を消せば涼しい空気が出るように空調を設定してインセンティブとしているなど。

空調の省エネ

古い建屋を含めガラスの2重化と遮熱を実施。送風ファンのインバーター化。外気取り入れを

CO₂センサーで極小化。蓄熱槽の夜間スイッチを早く入れすぎて、保温のための電気を使っていたのでスイッチONを遅らせた。冷媒の温度差を大きくして搬送量を削減など。

圧搾空気の省エネ

どの工場でも圧搾空気は20~30%漏れている。アズビルが開発したディテクターにより漏れ箇所を見つけて修理し、コンプレッサーの省エネや小型化につなげた例を紹介戴いた。(文責事務局)

